

「大人」

2015 年 1 月 17 日(土)

会場：リリオ(品川)

参加：14 名

司会・文責：野田

1. 概要：

- ・社会を構成する大人としての役割と、社会に順応するための欲求のコントロールの仕方について主に議論しました。

2. お題の説明

- ・リクエストがあり、第 6 回（11 年 2 月）で取り上げたテーマを取り上げました。お正月には親戚の集まりなどで、普段会わない年代の方と接触して、大人としての振る舞いについて意識することもあるかも知れません。また、成人の日と成人式に困みました。

3. 大人を象徴するエピソード

- ・売り場で子供が欲しいものを買ってほしくて駄々をこねることがある。大人はこういったことをしない。
- ・高校受験を目前にした子供が、自分の進路を決めようとして悩む。大人とはこういったものだという基準があり、その基準に自らを合わせようと努力しながら徐々に大人になっていく。
- ・近代以前の世界では大人への通過儀礼があり、怖いことに耐えることが出来ることが大人の条件であった。

4. 大人とは

- ・20 歳から 80 歳くらいまでが大人であるが、年齢の幅が広い。一つにくくなくてもいいのでは。
- ・本人の自己認識としての大人と周りから見た評価としての大人の二つの観点がある。

⇒以下、本人の自己認識としての大人の観点からは、5.の「自己を統制する大人」に関する議論が、周りから見た評価としての大人の観点からは、6.の「他者との関係における大人」に関する議論が行われた。

5. 自己を統制する大人

- ・経済的に、精神的に自立、自律している。生活が自立、自律している。
- ・守らないといけないことを守り、そうでないものにこだわらない、欲求を自己統制出来、寛容の精神を持つこと。
- ・思い通りにならないことを、あきらめるのではなく受け入れることが出来る人が大人である。
- ・欲望そのもののコントロール、欲望を満たすための手段のコントロールなど、様々なコントロール方法を持っていることが大人である。欲求する自分と、その自分をコントロールする自分があって、知識や経験に基づき高次の判断が出来る。成熟し、内面の葛藤が少なくなることで、楽になる。
- ・自由に遊べるようになることが大人である。

6. 他者との関係における大人

- ・社会における役割を果たすことが大人である。子供は大人が決めたルールに従って生きていく。
- ・子供は大きな存在に自らをゆだねられる存在であり、大人は責任を人に預けられない存在である。
- ・第三者から大人に見えることが大人である。人の意見を聞き取ろうとする態度を持つ。周りへのアプローチの仕方が適切である。

7. まとめ：

- ・参加者の身近な体験から、他者との関係を適切に保つことで社会における役割を果たすという考え方と、自らの生活を自ら良い状況に保持することが出来ることという考え方が示されました。

以上